

笑顔あふれる街づくりを実現します!

みのり通信

2026年
初夏号
[令和8年]



Facebook

公式ホームページ

■ 畠山みのり道政事務所 〒005-0006 札幌市南区澄川4条1丁目1-43

TEL : 011-813-7733 FAX : 011-813-7778

■ 北海道議会民主・道民連合議員会 〒060-0002 札幌市中央区北2条西6丁目

URL <http://minori-hatakeyama.jp>

Mail minori@minori-hatakeyama.jp



第1回定例道議会報告

(令和8年2月20日～3月19日)

第1回定例道議会は、2025年度一般会計補正予算、最終補正予算、2026年度一般会計予算、「国会における憲法議論についての意見書」などを可決しました。代表質問には笹田浩議員が立ち、知事の政治姿勢、物価高工ネルギー価格の上昇など、暮らしへの不安が続く中で開かれた今回の定例道議会。道民の皆様の声を道政に届けるため、子育て支援、医療・福祉、教育、防災、観光振興などさまざまな課題について議論が行われました。

◆ 主な審議からまとめ ◆

● 物価高と実質賃金への対応について

物価の上昇が続く一方で、賃金の伸びが追いつかず、家計への負担が大きくなっています。

デジタル関連産業の振興や人材確保対策など、地域経済と雇用を支える取り組みについて知事の認識を質しました。

また、これまでの対策を続けるだけでなく、実際に効果が出ているのかを検証し必要な対策を柔軟に見直していくことの必要性についても求めました。

● エネルギー政策について

「泊原発再稼働」をめぐり、中部電力浜岡原発で発覚したデータ不正問題も踏まえながら、泊原発3号機の安全対策や避難計画、再稼働後の電気料金への影響などについて、知事の見解を求めました。

知事は、安全性については原子力規制委員会の審査に委ねるとしたうえで、「同意判断にあわせて、防災対策や避難経路の整備などについて国や関係機関と連携し、必要な対応を進める」との考えを示しました。

● 環境等政策について

「違法開発」については、不適切な森林開発などへの対応強化や監視体制の実効性、早期発見・未然防止策について知事に質問しました。

知事は、「悪質な事案には勧告を経ず行政処分を行うなど関係機関との連携強化や制度運用の見直しをすることで迅速な対応を進めてきた」と答弁しました。

水資源条例や環境規制対策など北海道独自の対策を含め、環境保全の一層の強化について知事に再三質しましたが、法令運用と国への規制強化要望申請により対応していく、と従来の方針を繰り返しました。

● 北海道宿泊税について

畠山みのりは3月19日、食と観光調査特別委員会委員長として、委員会に付託された議案審査の経過と結果について報告しました。

北海道宿泊税基金条例案について、宿泊税をこの基金に積み立て「観光の付加価値を高める」「観光サービスや旅行者受け入れ体制の充実や強化」「災害など観光分野の危機への対応強化」それらを通じて地域社会と北海道経済の発展に役立つ観光振興施策に使うための費用に充てるための基金として設置する条例であることを委員会で審査した結果、全会一致で原案を可決したことを報告しました。



3月19日 議場で報告する畠山みのり道議

鹿児島県日置市を

訪問しました

「子育て世代を支える
取り組みを学ぶ」

4月16日、鹿児島県日置市を訪問し、子育て支援の取り組みについて視察してまいりました。

日置市では、出生時体重2,000g未満の赤ちゃんをご家族を支えるため、今年4月から搾乳機や母乳パットの費用を助成する新たな取り組みが始まっています。医療制度だけでは十分にカバーしきれない部分にも目を向け、退院後の生活まで見据えた支援を行っていることに支えていくことに、深い配慮を感じました。

未熟児養育制度では、入院中の診察や検査、治療、薬剤費、食事療養費などが公費負担となる一方、差額ベッド代やおむつ代などは対象外です。こうした現状の中で、日置市の取り組みはご家族の不安や負担を和らげる力強い支援だと感じました。

今回は、国際母子手帳委員会事務局長で、世界中で母子手帳開発に尽力されている板東あけみ氏のお声がけにより、永山由高市長をはじめ全国の地方議員の皆さんと意見交換を行う機会に恵まれました。それぞれの地域の課題や工夫を共有でき、大変学びの多い時間となりました。

北海道でも低体重で生まれた小さな赤ちゃんのための母子手帳、リトルベビーハンドブックが導入されてから3年が経ちますが、まだ十分に知られていない面もあり、さらなる医療機関と行政の連携強化が求められています。

今回の視察を通じて、制度をつくるだけではなく医療機関や行政との連携を深めながら、安心して子育てができる環境づくりを進めていくことの大切さを改めて感じました。

リトルベビーハンドブック

北海道では2023年に、道立子ども総合医療・療育センターや北海道助産師会、当事者団体、民間企業の協力を得て小さく生まれた赤ちゃんのご家族のためのハンドブックを作成しました。

早産などで小さく生まれた赤ちゃんの成長記録は正期産を前提に作られているため、通常の母子健康手帳では記録できない項目があるなど母親の心理的な負担が強くなっています。全国に先駆けて2018年に静岡県県がリトルベビーハンドブックを作成・配布したのが始まりですが、2025年には47都道府県で作成・運用されています。



「北海道みんなの日」

北海道の価値を見つめ直し
これからの北海道を考える日

7月17日は「北海道みんなの日」略して「道みんの日」です。皆さまはご存じでしたか？

「北海道みんなの日条例」は平成29年に議員提案によって制定されました。この条例には、北海道の価値や魅力を見つめ直し、ふるさと北海道への愛着や誇り育んでいく——そんな思いが込められています。

これまで道では、「道みんの日」をもっと身近に感じてもらうため、小中高校生へのふるさと教育や、北海道の魅力を発信するメッセージングコンクールなどさまざまな取り組みを行ってきました。

しかし、制定から今年で10年目を迎える中、認知度はまだ十分といえず、道民全体への浸透にはまだまだ課題が残っています。

そこで、もっと多くの方に親しみを持ってもらえるよう、昨年リニューアルして大好評な赤れんが庁舎を活用したイベントなども効果的ではないかと、予算特別委員会にて提案しました。

道からは「認知度向上に向け、情報

発信の工夫や市町村と連携した取組を進めていきたい。赤れんが庁舎の活用についても検討していく」との答弁がありました。

北海道には、私たちが普段の暮らしの中では当たり前と感じている景色や食、文化など、実は道外の方々から高く評価されている魅力がたくさんあります。

北海道に住んでいるからこそ気が付きにくい、北海道の良さを改めて見つめなおすきっかけとして、「道みんの日」がもっと親しまれるよう、引き続き発信してまいります。

「道みんの日」とは

北海道の名付け親とされる松浦武四郎が、明治2年(1869年)7月17日、明治政府に対し「蝦夷地」という名称を「北加伊道」と改めた日であったことから、道みんの日

に制定されました。伊勢国(三重県)出身の武四郎は、江戸時代の終わりから明治にかけて活躍した探検家で、6度に渡り蝦夷地を踏査し、アイヌの人々とも交流を深め、詳細な記録を数多く残しました。

